



N・Kさんが訪れたのは、東武スカイツリーライン「松原団地駅」前にある松原パートナーズ心臓・血管クリニック。昨年12月に検査を導入し

す。検査は、各地の連携医療機関で受診可能です。

試験管1本分で10mlです。

食事は3食手作りで、適度な運動も続けているN・Kさん（70歳）は、いたって健康。唯一気になるのは、1年ほど

前から続いている頭痛です。後頭部から首にかけて、時々痛むものの、それほど強い痛みではないので、検査を受けたそうです。

「検査はちょっと怖い気もしましたが、頭痛は『肩こりのせいぢやないか』って思い込もうとしていましたね」

今回、血液検査で簡単に脳梗塞のリスクを判定できると知り、思い切って受けました。この検査は千葉大学発のベンチャーエンジニアリング「アミンファーマ研究所」が開発したもので、「脳梗塞リスクマーカー」と呼ばれるもの。まだ自覚症状のない「かくれ脳梗塞（無症候性脳梗塞）」を発見することができます。



血液検査で発症リスクがわかる!
話題の

「脳梗塞リスクマーカー」を受けてみました

将来、脳梗塞になりやすいかどうかが血液検査でわかる時代になりました。どんな検査なのか、読者が体験取材しました。

取材・文／向山勇 撮影／平野晋子



// 開発者に聞きました //

なぜ、血液検査で 脳梗塞のリスクがわかるのですか？



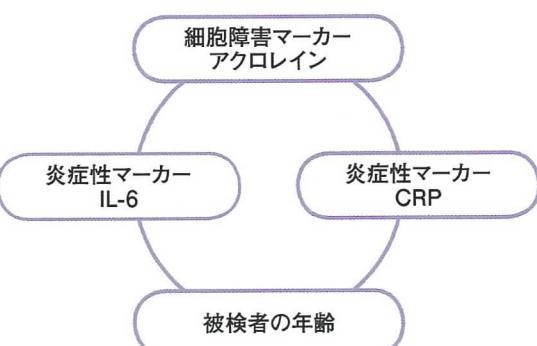
五十嵐一衛先生
いがらし・かずえい
アミンファーマ研究所代表
取締役社長、千葉大学名誉教授。千葉大学大学院での研究活動中に、脳梗塞と強い関連を持つ物質「アクロレイン」に注目し、世界で初めての脳梗塞バイオマークーとして特定。2007年にアミンファーマ研究所を設立し、代表取締役社長に就任する。

三つの物質 十年齢で脳梗塞リスクを判定

病気にかかると、血液中に特定の物質が増えることがあります。たとえば、脳梗塞を発症したときにどんな物質が増えるかがわかつていれば、血液検査でその物質の有無を調べることで、脳梗塞のリスクが判定できるわけです。その物質のことを「バイオマーク」と呼びます。日本人の三大死因であるがん、心疾患、脳血管疾患のうち、がんと心臓疾患には有効なバイオマークが発見されていましたが、脳血管疾患では見つかっていませんでした。

それを発見し、実用化したのが「脳梗塞リスクマーカー」です。年間2万人がこの検査では、三つのバイ

細胞を傷つける「アクロレイン」と2種類の炎症性マーカーでリスクを判定



血液中の①アロレイン、②IL-6、③CRPを検査した上で、被検者の年齢を考慮してリスクを総合的に判定します。結果が「高値」の場合、かくれ脳梗塞である可能性が高く、かくれ脳梗塞が発見された人はそうでない人と比べ、向こう7年間に脳梗塞を発症するリスクが10倍程度に上昇することがわかっています。

「高値」と判定された方の約85%に、かくれ脳梗塞（無症候性脳梗塞）が見つかっています。「境界値」「高値」と判定された場合には、MRIで精密検査をすることをすすめています。

MRIなどの画像診断が知られていますが、自由診療で人間ドックを受診すると費用が高額になります。また、画像診断では、過去の脳梗塞の痕跡も写つてしまふので、必ずしも現在の状況を表しているとは言い切れない面もあります。

MRIの検査方法としては、MRIなどの画像診断が知られていますが、自由診療で人間ドックを受診すると費用が高額になります。また、画像診断でわかるようになるでし

少しどきどきしながら、再びクリニックを訪れたN・Kさん。検査結果は3段階の真ん中の「境界値」でした。

「高めの数値ですからMRI検査を受けて、かくれ脳梗塞がないかどうか、調べたほうがいいですね」と市川忍院長。N・Kさんは少し驚きつつも「この際、徹底的に検査しようと思います。検査して何もなければ安心ですから」と、MRI検査を決意。専門機関へ紹介状を書いてもらい、受診することに。脳ドックでMRI検査を受けると高額な費用がかかりますが、紹介状があれば健康保険の対象となるさらに持参した健康診断の結果を見てもらうと、血糖値が高いので費用は安く済みそうです。

脈のコレステロールについて糖尿病かどうかを調べ、頸動脈のコラーゲンについても検査したほうがいいことがわかりました。

検査結果は脳梗塞リスク値が0.80以上は「高値」、0.44～0.79が「境界値」、0.43以下が「低値」と判定されます。N・Kさんの場合は0.70と「高値」に近い「境界値」だったので、MRIでさらに詳しい検査することに。



検査結果を聞き、再度クリニックへ。

結果の説明を受けます



直近の健康診断の検査結果を持参していたN・Kさん。血圧は正常の範囲でしたが「血糖値が高めなのが気になる」と市川院長。

検査結果は…



「高めの数値」なので、より詳しい検査をおすすめします
市川忍院長

検査結果は脳梗塞リスク値が0.70と高めでした。MRI検査で詳しく調べたほうがいいですね。加えてN・Kさんの場合は、健康診断の数値で血糖値が高めになっているのが心配です。かくれ糖尿病の可能性があるので詳しい検査をおすすめします。また、血糖値が高いと動脈硬化の心配もあります。とくに頸動脈にコレステロールが張り付いて動脈硬化を起こすと、その塊が脳に飛んで脳梗塞を引き起こすことも考えられます。早期発見できれば薬で溶かすことができますので、頸動脈エコー検査も受けておくと安心です。



結果を聞いて
N・Kさん

頭痛がずっと気になっていたので、今回検査を受けることができ本当に良かったです。MRI検査の結果がどうなるのかは心配ですが、徹底的に調べてもらわなければ安心ですし、何か問題があれば早めに治療をしたほうがいいですからね。健康診断の結果を併せて見ていただけたのも良かったですね。健康診断を受けたときには簡単な説明だけだったので今回、詳しく見ていただいて、必要な検査もわかりましたので、ぜひ受けたいと思います。家に帰ったら主人にも結果を伝えないといけませんね。少しは心配してくれるかしら(笑)。

*編集部より
「脳梗塞リスクマーカー」の検査結果は、松原パートナーズ心臓・血管クリニックのように面談で伝えてくれるところばかりではなく、郵送されてくる場合もあります。面談で伝えてくれるところのほうが質問しやすく安心ですので、事前に問い合わせて、郵送なのか面談なのかを確認してから受診することをおすすめします。